

PBS : Plant Behavior Data System プラント事故挙動データシステム

事故が発生した際、今後の事故の進展予測の参考とするために、「解析予測システム (APS)」及び「プラント事故挙動データシステム (PBS)」があり、これらのシステムはプラントの状態をコンピュータで解析し、その情報を画面に表示します。(略)

PBS では、予め、種々の事故事象に対するプラント挙動を解析し、これら解析結果をデータベース化しておきます。事故が発生した際は、似かよった事象をデータベースから検索・表示することにより、APS よりも早い段階で、おおよその事故進展を把握することができます。また放射性物質の放出量を SPEEDI に受け渡すことも可能です。

解析予測情報の表示

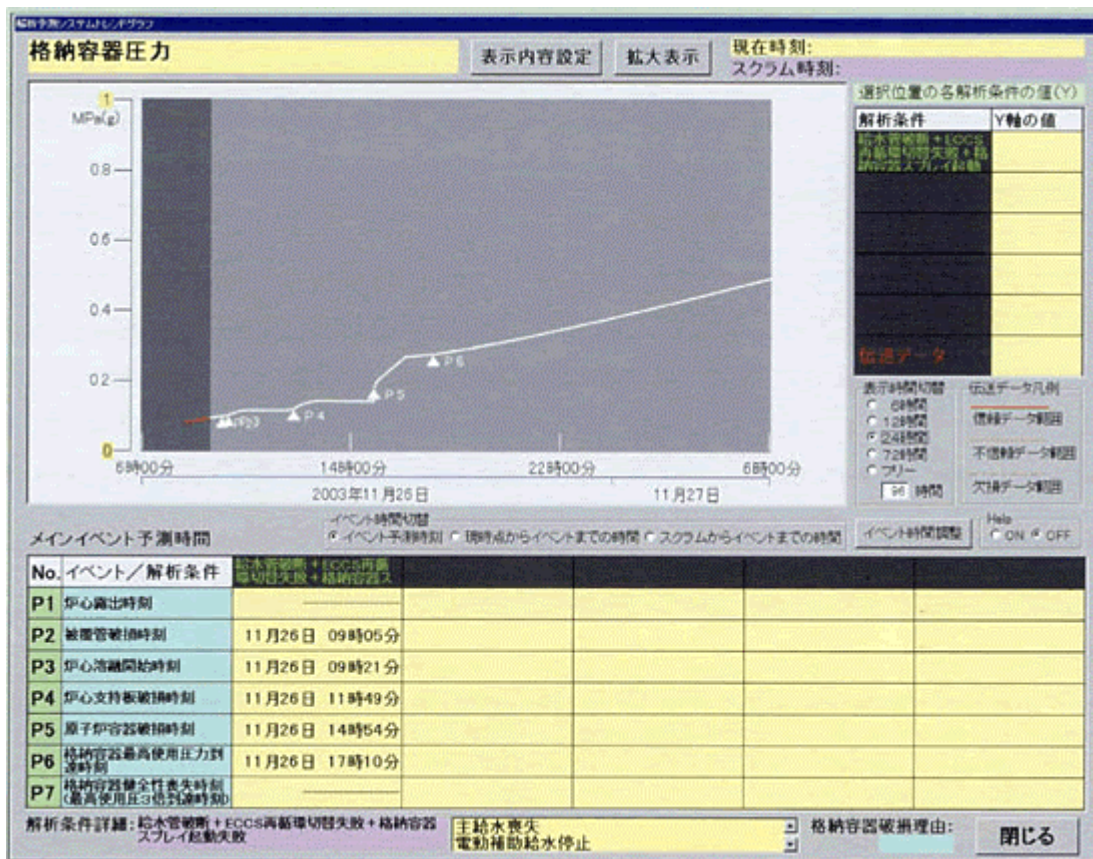
事故が発生した際、今後の事故の進展予測の参考とするために、「解析予測システム (A P S)」及び「プラント事故挙動データシステム (P B S)」があり、これらのシステムはプラントの状態をコンピュータで解析し、その情報を画面に表示します。

A P Sでのコンピュータによる解析では、電気事業者から送られる伝送パラメータを入力することにより、実現象に即した予測解析が行われます。

予測計算の結果として、炉心出口温度、原子炉および格納容器の温度・圧力等のプラント主要パラメータ値のトレンドグラフや放射性物質の放出量を表示します。

この放射性物質の放出量は、緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム(S P E E D I)に受け渡されることとなります。

P B Sでは、予め、種々の事故事象に対するプラント挙動を解析し、これら解析結果をデータベース化しておきます。事故が発生した際は、似かよった事象をデータベースから検索・表示することにより、A P Sよりも早い段階で、おおよその事故進展を把握することができます。また放射性物質の放出量を S P E E D I に受け渡すことも可能です。



解析予測結果表示例